

## 執筆者一覧（掲載順）

- 後田 多 敦 非文字資料研究センター研究員  
神奈川大学国際日本学部教授
- 谢 任 南京大学 助理研究员
- 田島 奈都子 青梅市立美術館 学芸員
- 余 璋 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
- 廣瀬 由子 筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学群  
人文学学位プログラム歴史・人類学サブプログラム 博士前期課程
- 松本 和也 非文字資料研究センター研究員  
神奈川大学国際日本学部教授
- 有馬 絵美子 非文字資料研究センター 2021 年度奨励研究採択者  
神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
- 小林 兆太 非文字資料研究センター 2021 年度奨励研究採択者  
高知県歴史文化財課 県史編さん室
- 竹本 真 非文字資料研究センター 2021 年度奨励研究採択者  
神戸大学大学院工学研究科 博士後期課程
- 張 高 娃 非文字資料研究センター 2021 年度奨励研究採択者  
神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

## ■編集後記

『非文字資料研究』第26号は、論文4点、報告2点、奨励研究成果論文4点の充実した構成となりました。後田多氏の論文は、イラストと写真という2種類の「非文字資料」の比較検討をとおして、現在進められている首里城大龍柱の復元に疑問を呈しており、資料の作成目的や性格の違いを正しく理解することには歴史的真相の確認もなしえないことを示しています。謝氏の海外神社に関する論文は、当センターの「神社班」の精力的な研究活動に呼応して投稿されたもので、国際的な研究の広がりを感じさせます。また田島氏は、三越呉服店が実施したポスター用原画の公募が社会に与えた影響を明らかにされました。そして余氏は、中国民俗学における物質文化研究の体系化をはかるための基礎的研究として教科書を分析し、今後の課題を提示しています。

廣瀬氏の報告は、大学院生として子ども向けの博物館展示を企画・運営した記録、続く松本氏の報告は、現代演劇の最前線で活躍されている俳優へのインタビューの採録であり、いずれも新たな試みとして、非文字資料研究の可能性とさらなる展開が予見されます。

センターの目的のひとつでもある若手研究者の育成は、今号の奨励研究成果論文でも果たすことができました。2023年度から研究助成は新たな枠組みで実施されますが、これまで以上に独創的で多彩な研究成果が本誌上に集うことを期待しています。(山本志乃)

## ■表紙説明

表紙図版は、琉球国の王陵「浦添ようどれ」(沖縄県浦添市)を描いた絵図を撮影した写真(沖縄県立博物館・美術館所蔵)で、琉球政府文化財保護委員会委員だった仲座久雄(故人)の遺品から見つかったもの。被写体の絵図自体は確認されていない。王陵「浦添ようどれ」は英祖王が咸淳年間(1265から1274年)に築いたとされている。その後、1620年に尚寧王が改修し、尚寧王自身も葬られた。1945年の沖縄戦で壊滅的に破壊されたが、復元整備が2005年に完了している。「浦添ようどれ」とある写真の基絵図は1701年から1707年まで、琉球国王府の絵図并指図奉行だった嘉楊親雲上が、重要施設絵図指図調製事業のなかで製作したと考えられている。それ故に「絵図」は当時の「浦添ようどれ」の状況を正確に描いているとして、復元整備での重要な資料とされた。ただ、東室袖の石積み上の一対の石獅子は、実際とは異なる相対向きの姿で簡単な筆致で描かれている。

裏表紙図版「ようどれの墓」は、1945年の沖縄戦で破壊される以前の王陵「浦添ようどれ」を撮影した写真(田邊泰『琉球建築大観』琉球建築大観刊行会、1937年)の東室部分を拡大したもの。東室袖の石積み上の一対の石獅子は正面向きで、写真に収まっている。右側の石獅子は沖縄戦で失われたが、左側は破壊を免れ、現在も元々の正面向きの姿である。(後田多敦)

非文字資料研究 第26号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No. 26

---

発行日	2023年3月20日
編集・発行	神奈川県立博物館 神奈川大学 非文字資料研究センター 日本常民文化研究所 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/">http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/</a>
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 2432-5481